

CSW66 ユースレポーターからの報告

伯野 寧 (はくの ねい)

トロント大学 社会科学部 1年

専攻：社会学&女性とジェンダー学 (Women's and Gender Studies)

Voice Up Japan メディアチーム

参加のきっかけ

- 気候変動が女性に与える影響について学びを深める
- 構造問題へのアプローチの仕方を学ぶ
- 声をあげる次のステップとして、私に何ができるのか考える



(上) AP通信がWorld Economic Forum Youth Climate Science Conference 報道の際に使用した画像。



(下) 実際の画像。ヴァネッサ・ナカテのみ切り取られているのがわかる。

(パラレルイベント/サイドイベント)
**FEMINIST RESPONSES
TO INVISIBILITY AND VIOLENCE**

5人の社会学者がそれぞれの視点から女性についての可視化されていない問題と暴力についての研究発表

交差性（インターセクショナルリティ）の視点から女性が直面する差別について

- 環境アクティビスト：ヴァネッサ・ナカテ（ウガンダ出身）が受けた差別

(パラレルイベント/サイドイベント)
**DEBUNKING THE FALSE
SOLUTIONS: TOWARDS FEMINIST
CLIMATE JUSTICE**

■ ジオエンジニアリング・ネットゼロなどの
気候変動に対する解決策の問題点を提起

- 経済的利益を最優先し現在の新自由主義的なシステムを維持するためにある
- そういった解決策は脆弱な層を苦しめるだけ

■ 話し合われた解決策

1. 力関係に気づく (誰が搾取され、そこから誰が利益を得ているのか)
2. 新自由主義へ向かうのは正しい道なのか問い続ける

debunking the myth of false solutions:
towards feminist climate justice

CSW66 Parallel Event

16 March, 10:00 - 12:00 EST

Women's
Major Group



WOMEN
& GENDER
CONSTITUENCY



(日本のサイドイベント)

OUR ETHICAL CONSCIOUSNESS AND ACTIONS CHANGE
THE WORLD: TOWARDS THE PARTICIPATION OF ALL
PEOPLE IN ENVIRONMENTAL ISSUES"

- 翻訳作業について
- このイベントから考えたこと
 - リーインフェミニズム的な支援のあり方はいつまで？
 - 新自由主義的な社会構造の再生産はいつまで？
 - 対処療法的な支援と構造問題へのアプローチの両立は難しい？

CSW66の合意結論について

学びになった点

- 脆弱な層が受けているさまざまな問題を認識している（P3-11まで48個もの）
 - 少なくとも現在可視化されているものは明記
 - 次の議論の土台になる
- 言葉の選び方を徹底している
 - × 曖昧な言葉
- 60時間以上もの話し合い
- それぞれのバックグラウンドからくる視点が反映されている

合意結論から考える構造問題へのアプローチ方法

- 何が問題で誰にどう影響するのか明確に認識するところから始める
 - 先住民族の女性の場合（CSW66合意結論から）
 - 問題：暴力・差別・貧困・ヘルスケアへのアクセス不足
 - 影響：彼女たちがのびのび生きる権利が失われる
- 問題の明確な言語化をする
 - 曖昧な言葉使わない
- 何をすべきなのか提案をする

私がこれから頑張ること！

- 何が問題なのか認識するためにもっと学びが必要！
- 自分の属性からくる経験をもっと言語化！
 - 自分が持つ特権も認識する
- さまざまな人に質問、そして話す！